全国私立大学FD連携フォーラム

Japan Private Universities FD Coalition Forum

News Letter No.2

日本の新しい「高等教育の質保証」標準をめざします。

CONTENTS

P 2 JPFF 概要（発足の経緯・組織図・活動内容）

P 3 2010（平成 22）年度の取組紹介

P 4 新規加盟大学の紹介

P 6 FD 徒然草 －Part 1－
日本の高等教育における FD の未来
－情報技術から態度・志向へ－
立命館大学教育開発推進機構 教育開発支援センター長　安岡 高志

P 7 立命館大学における
新任教員対象「実践的FDプログラム」実施報告

P 8 「実践的 FD プログラム」オンデマンド講義一覧

P10 「実践的 FD プログラム」申込要領

P11 JPFF 規約

P12 入会のご案内

Japan Private Universities FD Coalition Forum

Japan Private Universities FD Coalition Forum News Letter

全国私立大学FD連携フォーラム

Japan Private Universities FD Coalition Forum

発足の経緯

学生の規模や多様性の面で共通の課題を抱える中規模以上の私立大学が互いに持てる力を出し合い、FD（ファカルティ・ディベロップメント）分野において連携することを目的として、全国私立大学FD連携フォーラムを2008（平成20）年に発足しました。このフォーラムでは、実践的なFDプログラムを共同開発・共同実施することを通じて、学生を主体的学習者に育て、私学の教育の質を保証することを大きな目的としています。

代表幹事校：立命館大学

幹事校		会員校	
関西大学	立教大学	青山学院大学	芝浦工業大学
関西学院大学	早稲田大学	神奈川大学	創価大学
慶應義塾大学		北里大学	帝京大学
中央大学		京都産業大学	東京農業大学
同志社大学		甲南大学	東北学院大学
法政大学		國學院大學	名城大学
明治大学		国士舘大学	（50音順）

2011（平成23）年3月現在

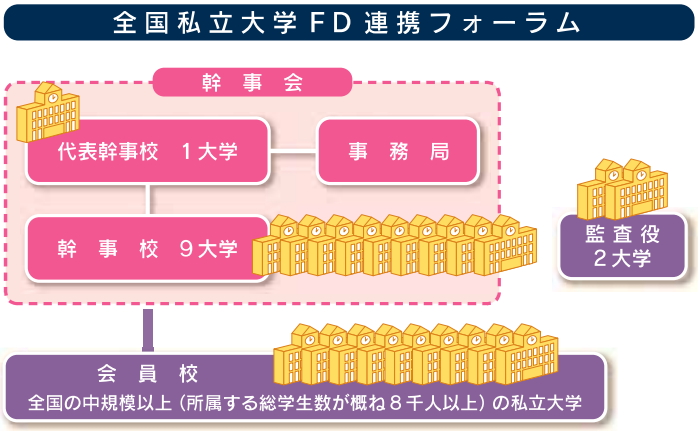
組織図

設立目的

全国の中規模以上の私立大学が連携してFD（ファカルティ・ディベロップメント）を推進することにより、日本の新しい「高等教育の質保証」標準をめざす。

活動内容

◎FDに関わる取り組みや研究の共同開発・実施
◎全国への情報発信（ホームページの作成、広報誌の発行など）
◎FDに関わる教材・資料・情報の提供・共有
◎その他、前条の目的を達成するために必要な活動



活動内容

全国私立大学FD連携フォーラムは、これまで、FDに関する各大学の実践交流の他、実践的FDプログラムの共同開発をすすめ、会員校内で共有してきました。本活動は、立命館大学が2008（平成20）年度に採択された文部科学省の「質の高い大学教育推進プログラム」の補助金により運営してきましたが、文部科学省の補助事業としての期間が終了する2011（平成23）年度以降は、全国の大学・高等教育機関への公開を行いつつ、立命館大学を中心に、会員校の協力を得ながら開発・運営を行っていきます。

FDマップからのモジュール・プログラム抽出例

4つのアカデミック・プラクティス

	レベル1	レベル2	レベル3
教育	講義A（VOD） 講座B（WS）	講義C（VOD） 講座D（WS）	講義E（VOD） 講座F（WS）
研究	講義G（VOD） 講座H（WS）	講義I（VOD） 講座J（WS）	講義K（VOD） 講座L（WS）
社会貢献	講義M（VOD） 講座N（WS）	講義O（VOD） 講座P（WS）	講義Q（VOD） 講座R（WS）
管理運営	講義S（VOD） 講座T（WS）	講義U（VOD） 講座V（WS）	講義W（VOD） 講座X（WS）

選択

【新任教員対象プログラム】	【職員対象(SD)プログラム】
講義A（VOD） ＋ 講座B（WS） ＋ 講義C（VOD） ＋ 講座D（WS） ⋮	講義S（VOD） ＋ 講座T（WS） ＋ 講義U（VOD） ＋ 講座V（WS） ⋮

各大学の対象者や実施目的の違いによって、講義（VOD）や講座（WS）を選択し、様々なプログラムを作ることができます。

※VOD：オンデマンド講義／WS：ワークショップ

2010（平成22）年度の取組紹介

2010（平成22）年度 行事・会議

2010年度 総会およびパネルディスカッション

ファカルティ・ディベロッパー養成プログラム

ワークショップの様子

- **会員校ミーティング**
  日　時：2010（平成22）年５月19日（水）16:00～17:30
  会　場：立命館大学 東京キャンパス／衣笠キャンパス

- **2010年度 第１回 幹事会**
  日　時：2010（平成22）年６月12日（土）13:00～14:00
  場　所：関西大学 千里山キャンパス 尚文館３F 大学院会議室

- **2010年度 総会およびパネルディスカッション**
  日　時：2010（平成22）年６月12日（土）14:00～17:00
  場　所：関西大学 千里山キャンパス 尚文館１F「マルティメディアAV大教室」

- **2010年度 第２回 幹事会**
  日　時：2010（平成22）年10月８日（金）15:00～16:00
  会　場：立命館大学 東京キャンパス／衣笠キャンパス

- **2010年度 臨時総会**
  日　時：2010（平成22）年10月８日（金）16:20～17:30
  会　場：立命館大学 東京キャンパス／衣笠キャンパス

- **教育GP最終報告会**
  日　時：2011（平成23）年３月19日（土）13:00～15:30
  会　場：立命館大学 衣笠キャンパス 創思館カンファレンスルーム

- **上記に加え、実践的FDプログラム ワークショップ（10講座）の開催**

＊オンデマンド講義11本とワークショップ用ビデオ４本を開発

2010（平成22）年度 発行物

- **全国私立大学FD連携フォーラムニュースレター No.2**

- **2010年度 新任教員対象**
  「実践的FDプログラム」受講ガイドブック（英語版）

新規加盟大学の紹介

北里大学　Kitasato University

●全国私立大学 FD 連携フォーラムへの期待

本学は、学生数こそ八千数百人の中規模大学ですが、大規模大学なみに４つの遠隔地キャンパスに７つの学部を擁しています。特に大半の学部が医療系学部という事情も手伝って、FD の全学的な組織化という点では多くの困難を抱えていると同時に、教育改革に関わる諸課題についても、本フォーラムに参加する他の大規模大学と問題を共有する部分が少なくないと思います。フォーラムへの参加にあたって、参加校ともども課題を共有し、情報交換ができればと考えております。

●学内の FD 実践紹介

本学の FD は基本的に学部単位で独自に展開されていますが、平成 19 年に全学の FD 支援を行う「高等教育開発センター」が設置され、各種講演会・ワークショップ、新任教員研修の企画・開催をはじめとして、ICT による授業支援や初年次教育プログラムの開発、全学学生調査、FD・SD 叢書の発刊などに取り組んでいます。また、平成 21年度の大学基準協会による認証評価を踏まえて学部横断の全学教育委員会が組織され、全学規模の大学教育改革に臨む態勢が徐々に整えられています。

学習目標をめぐって（新任教員研修会）

國學院大學　Kokugakuin University

●全国私立大学 FD 連携フォーラムへの期待

私立大学は、我が国の高等教育を質・量ともに支える存在として日本社会に対して大きな責任があります。とくに本フォーラムの加盟要件となっている、学生数約１万人規模の私立大学の場合、日本の私立大学全体の教育改善を牽引していくことが期待されるのではないでしょうか。

本フォーラムへの加盟は、本学の教育改善に資するためであることはいうまでもありませんが、それとともに、我が国の大学教育改革の流れに少しでも寄与できれば、との思いからです。とくに今後は、大学教育のあり方や、教員養成の方法等に関して、私立大学間で一定の基準を共有することが求められていくと思われます。本学は、そうした体制構築のお手伝いをするとともに、本フォーラムを通じて知り、学んだことを、本学の教育改善に役立て、学生に、ひいては社会へ還元していければと考えています。

●学内の FD 実践紹介

本学においては平成 13 年度より FD 活動を実質化し、「國學院大學 FD 委員会」を中心に FD 講演会の開催、授業見学の実施、学生による授業評価アンケートの実施など、主に全学的な FD 活動を推進してきました。そのうえで、平成 21 年４月、本学の教育力のさらなる向上を目指して「教育開発推進機構」を発足させました。同機構は「教育開発センター」「共通教育センター」「学修支援センター」の３センターおよび「國學院大學 FD 推進委員会」からなり、『「学ぶ」と「教える」をあと押し』をコンセプトに、従来の全学的 FD 推進のみならず、各学部の個性に応じた FD 活動の支援、本学教員の授業能力のさらなる向上、共通教育の開発支援、個々の学生に対する細やかな学修支援などに取り組んでいます。

以上のような体制を構築していく中で、本フォーラムとの緊密な連携を通して、より一層の FD 開発をめざします。

FD 講演会の様子

帝京大学 Teikyo University

●全国私立大学 FD 連携フォーラムへの期待

今日、大学のユニバーサル化が進行する一方で、グローバル化社会における高等教育の質保証への要求が高くなっています。全国にある700校余の国公私立大学を一括りにして論じることは無理がありますが、中規模以上の私立大学の学生総数が日本の学生総数に占める割合を考えると、このようなフォーラムに参加して他校と交流・連携を図ることは、日本社会の将来を左右する大きなファクターとなるものと期待しています。

●学内の FD 実践紹介

主に文系学部を擁する帝京大学八王子キャンパスでは、「八王子キャンパス FD 委員会」として、積極的な FD 活動を展開しています。

本キャンパスの FD 活動の特徴は、帝京大学の建学の精神に基づいた教育理念である「自分流」を学生たちが身につけ、各学生が持つ「自己教育力」「社会力」「専門力」のトライアングルを最大限に広げるための支援として、

①共通教育プログラムでは、学生に求める最低到達目標ー本キャンパスでは、MR (Minimum Requirement)ーを設定して、教育の標準化を目指していること
②学生が最終的な MR を達成できるよう、段階を踏んだ具体的な目標を設定し効果測定を行うこと
③教員、教育プログラム、学部・学科の各レベルにおいて、教育の PDCA (Plan-Do-Check-Act) サイクルを回すこと

が挙げられます。また、年 3 回開催される FD 委員会会議の内容をニュースとして発行し、さらに年度末には、各学部・学科における年間活動、学内講演会、研修会の報告、専任教員全員に作成を依頼する授業改善報告書を一つにまとめた FD 年報を発行して、全教員で情報を共有しています。

教員相互の授業参観も定着してきており、今年度分の授業から、優れた授業を実践する教員を顕彰する BT (Best Teaching) 賞を設定する予定です。

また、本学は複数のキャンパスを設置していることから、例えば宇都宮キャンパスの「帝京大学ラーニングテクノロジー開発室」が主催する研修会に八王子キャンパスの教員が参加するなど、今後はキャンパス間における FD 交流・連携を図っていきたいと考えています。

創価大学 Soka University

●全国私立大学 FD 連携フォーラムへの期待

本学では教育・学習活動支援センター (CETL) を中心に、ほぼ毎月、教育改善に関わるセミナーや各種イベントを行っております。ただ、自前で取り組めることには限りがあります。学外の著名な先生方を講師にお願いするには、スケジュール調整だけで結構な手間になります。このフォーラムで提供される実践的 FD プログラムは、一流の講師陣によるしっかりした内容の講習をオンディマンド方式で視聴できます。これは素晴らしいことだと思いますし、FD 担当者にとってありがたいことです。

もし可能なら素晴らしい講師の方々から直接学びたい、という要望が出た場合に、講師の紹介・招聘の仲介をお願いできると非常に助かります。換言すると、このフォーラムが講師の人材バンクのような機能を果たしていただけると嬉しいです。

●学内の FD 実践紹介

本学が意識的に FD に取り組み始めたのは 12 年ほど前からです。大学基準協会への加盟、認証評価の申請という新しい大学改革の流れの中で、全学 FD の推進機関として 1999 年に教育・学習活動支援センター（通称 CETL）を設置しました。そして 2008 年度から全学 FD 委員会を組織し、学部 FD を支援しつつ大学全体の教育力向上を目指しています。

全学 FD 委員会では、年に 1 回の FD 講演会と各種学外イベント・研修会への教員派遣を行っています。CETL では、年 6 回の FD 研修会（CETL セミナーと呼ばれます）で、ICT 活用を含んだ授業設計や授業方法の研修や学生指導に関する勉強会など、20 ～ 30 名定員の比較的小規模なワークショップ・研修を行っています。また、教育サロンと呼ばれる不定期でインフォーマルな教職員の学習の場を提供しています。

FD徒然草 －Part1－ 日本の高等教育におけるFDの未来 －授業技術から態度・志向へ－

立命館大学教育開発推進機構 教育開発支援センター長　安岡高志

一昨年の暮、立命館大学の職員の主催するエクセレントカンパニーから考えるエクセレントユニヴァーシティという企画に参加した。この企画は企画名が示すように優れた企業から大学の在り方を学ぶというものである。当日はコーヒーメーカーのスターバックスの幹部５名を招いての懇談会であった。お話はスターバックスが世界で一流のコーヒーメーカーとして永続するためのミッションステートメントから従業員が日常心がけている三つの取り組み「1. パートナーを大切にする。2. サードプレイス＊を提供する。3. Just say Yes」までであり、大学ではあまり馴染みがないが面白い取り組み内容であった。懇談会の最後に、立命館大学が発展するために各自からアドバイスをいただいたが、今でも記憶に残っている二人の言葉がある。お一人のアドバイスは「立命館大学とはどのような大学ですかと聞かれた場合、全員がこのような大学です」と答えられるような特徴・個性を持つことであるというものであった。もうお一人のアドバイスは「日本における立命館大学の存在意義を明確にする」というものであった。今だに、この二つのアドバイスが記憶に残っているということは感銘を受けたからであり、賛同したためである。これらのことを実現するためには大学人は何をすべきであろうか。これは立命館大学のみに当てはまるものではなく、全ての大学に共通する課題である。

「学士課程教育の構築に向けて（中教審答申2008）」では、各専攻分野を通じて培う「学士力」として「1. 知識・理解」「2. 汎用的技能」「3. 態度・志向性」を挙げており、「4. 統合的な学習経験と創造的思考力」として「これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力」と謳われている。少し詳しく見ると「2. 汎用的技能」は、知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能として（1）コミュニケーション・スキル、（2）数量的スキル、（3）情報リテラシー、（4）論理的思考力、（5）問題解決力の５つが挙げられている。「3. 態度・志向性」は、（1）自己管理力、（2）チームワーク、リーダーシップ、（3）倫理観、（4）市民としての社会的責任、（5）生涯学習力の５つが事例として挙げられている。

特徴・個性のある大学を構築する場合、「1. 知識」、「2. 技能」、「3. 態度」の内、大学全体として特徴の出せるのは、「態度＞技能＞知識」である。なぜなら、知識は学部や学科により異なり、同じ大学でも内容は全く異なる。一方、特に理工系においてはこの傾向が強く、科目名が同じであれば何処の大学でも同じ内容である。したがって、大学の特徴として見られるのは知識ではなく、卒業生の働きぶりや生きざまであり、まさに「態度・志向性」である。一定の態度・志向性を学生が獲得するためには態度・志向性について学ぶのではなく、実際に見、実際に体験することが必要である。これを繰り返してはじめて一定の態度・志向性が身に付くので、教職員は学生に接する場合、それを態度で示すと共に学生にそのような態度を要求する必要がある。すなわち、如何に専門の知識を上手に教え、理解させても特徴・個性のある大学を構築することはできないのである。したがって、今後のFDは上手に教えることに加えて教職員の態度・志向性を通した学生との接し方、要求の仕方や生きざまが重要となる。これが学園の文化を構築するということである。

全国私立大学FD連携フォーラム（JPFF）を基盤として、立命館大学では新任教員を対象とする実践的FDプログラムに取り組み、2011年３月には15のオンデマンド講義、10回のワークショップ、教育コンサルテーション、ティーチング・ポートフォリオの提出を経て、修了生を出すに至った。筆者は立命館大学に2008年３月から在籍ということで、受講生とメンターという微妙な立場ではあるが、全てのプログラムに参加した。オンデマンド講義は大学教育にとって必要と思われる高等教育論や心理学をはじめとする教育学の立場から十分に考えられたすばらしい構成である。

ところで、先に述べた態度・志向性の学生への伝承はよくいわれる「暗黙知」の伝承に当たる。暗黙知は言葉や形にすることが難しい知識・技能であるが、それは伝える側の「見える化」しようとする工夫と、受け取る側の努力により伝えられるものである。本プログラムでは、本来伝える側である教員が、受け取る（学ぶ）側に立つことにより、①いかに暗黙知を学ぶかを体験できる「場」としてワークショップやコンサルティングなどが設定されている、②暗黙知を「見える化」する手法を身につける機会としてティーチング・ポートフォリオの作成が取り入れられている、③同僚や先輩教員とのコミュニケーションを通して大学文化の確認・定着を図ることができるように設定されていることを感じた。

さらに、実践的FDプログラムに参加して感じたことは自分の専門分野（化学屋）のみの知識では、態度・志向や技能に関するよい教育はできないこと、また、教員（大学人）として最低理解しておかなければならないことが多くあることである。この意味では、実践的FDプログラムとなっているが、本プログラムは職員を含めた実践的FD・SDプログラムとしての価値は非常に大きい。

この３年間は教材の整備や枠組みの整備が大きな比重を占めていたといわざるを得ないが、それぞれの大学が特徴と個性を出すために、このような研修プログラムの必要性を全国私立大学FD連携フォーラムを通して浸透させることが次の課題であるとセンター長としては考えている。

＊ファーストプレイス：家庭、セカンドプレイス：職場、サードプレイス：家庭でも職場でもない（有意義な）空間

立命館大学における新任教員対象「実践的FDプログラム」実施報告

2009年度より、新任教員を対象に2年間のプログラムとして実施し、2010年度には、第一期のの修了者をむかえることができました。実践的FDプログラムの修了認定は、受講開始から4年以内に所定の講座の6割以上を受講することを原則とし、オンデマンド講義へのレポート提出やワークショップへの参加状況、受講者が作成したティーチング・ポートフォリオ等にもとづいて本人の教育力量と職能の向上を評価し、修了証を発行します。

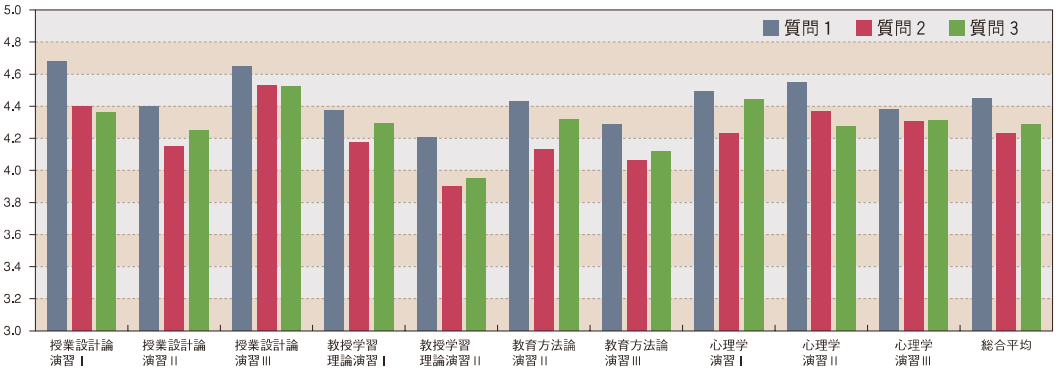
概　要

受付期間　2年間（但し、最大4年まで延長可能）

対　　象　本学に赴任する以前の教育歴が専任教員歴3年未満

修了要件　下記①～③の全ての要件を満たした者
① オンデマンド講義9/15本以上の受講と課題レポートの提出
② ワークショップ6/10本以上への参加
③ 研修終了時にティーチング・ポートフォリオの提出

2009-2010年度実施のワークショップ受講者による事後評価アンケート



■ 質問1
この研修を受講してよかった。

■ 質問2
他の教職員にも、この研修の受講を勧めたい。

■ 質問3
今後もこの研修を継続していくべきだ。

受講者の声

教育コンサルテーションへの意見

- サポートシステムがあることは大変心強く思いました。また、昼食会は新任教員同士のネットワーキングに役に立ちました。
- 交流を深める良い機会だと思います。特に、FDプログラムが終わった後にも繋がりを活かせる何かがあればと考えています。

ティーチング・ポートフォリオへの意見

- 自分自身の教育について振り返る良いきっかけになりました。
- 何とか今年中に提出致しましたが、エビデンスを豊富に確保することは、新任教員には難しいと思われます。シラバス作成などもオムニバス形式であったり、複数クラスでの開講の場合、実際に執筆することが少ないため、「自分の科目」と堂々いえるものが少ないことが主な理由です。
- これを作成することは非常によい。実現は難しいことだとは思いますが、全ての教員に作成を誘導すべきだと思いました。

その他

- 最初は面倒くさいと感じていましたが、自分が講義を進めるにあたり、非常に役立つ内容が多く、大変勉強になりました。今後とも続けていくべきと考えます。
- 大変、有用なプログラムであると思います。これからの継続開催を期待します。
- 授業設計論や教授学習理論については、自分が担当する授業で実際に実践してはじめて身につく事もありました。一方通行のオンデマンド講義と演習形式のワークショップだけでなく実際の授業での実践を目的とした課題があってもよかったかと思います。
- アクティブ・ラーニングの実践を今後心がけたいです。
- 学部学科に関らず、教育についていろいろな先生方と意見を交換できる機会があるという点は良いと思います。授業だけでなく、研究室運営に関して議論や意見交換などができるような場があれば良いと思いました。

「実践的FDプログラム」オンデマンド講義一覧

※ 2011年度公開予定講義一覧です。（一部変更になる場合があります。）
※「分類」は、「E」＝「教育」、「R」＝「研究」、「A」＝「管理運営」、「WS」＝「ワークショップ解説ビデオ」があります。
※「対応レベル」は、「レベル１」は新任教員向け、「レベル２」は一般教員向け、「レベル３」は管理職にある教職員向けとして構成しています。
※「日・英」は、それぞれの対応言語を示しています。
※ 講師の所属は、撮影時のものです。

大分類		中分類	対応レベル			分　野	テ　ー　マ	講　師	所　属（撮影時）	撮影年度	日・英
			LV1	LV2	LV3						
E	教育	高等教育論	●	●	●	高等教育論Ⅰ	現代の高等教育	金子 元久	東京大学	2008	日・英
E	教育	高等教育論		●	●	高等教育論Ⅱ	高等教育研究史	有本 章	比治山大学	2009	日
E	教育	高等教育論	●	●	●	高等教育論Ⅲ	大学改革とFD研究	江原 武一	立命館大学	2008	日・英
E	教育	高等教育論	●	●	●	高等教育論Ⅳ	大学評価論	安岡 高志	立命館大学	2008 2010(*)	日・英
E	教育	高等教育論		●	●	高等教育論Ⅶ	大学の国際化	モンテ・カセム	立命館大学	2010	日・英
E	教育	高等教育論		●	●	高等教育論Ⅴ	高等教育政策：戦後日本の大学政策（転換期の大学政策、海外との比較）	高野 和子	明治大学	2009	日
E	教育	高等教育論	●	●	●	高等教育論Ⅵ	接続教育：初年次教育の取組	山田 礼子	同志社大学	2009	日
E	教育	教授学習理論	●	●		教授学習理論Ⅰ	教授・学習の理論と教育実践（1）	永野 和男	聖心女子大学	2008	日・英
E	教育	教授学習理論	●	●		教授学習理論Ⅱ	教授・学習の理論と教育実践（2）	永野 和男	聖心女子大学	2008	日・英
E	教育	教授学習理論	●	●		教授学習理論Ⅲ	アクティブ・ラーニングの理論と実践における課題	三浦 真琴	関西大学	2009	日
E	教育	教育方法論	●	●		教育方法論Ⅰ	教育工学の観点から	林 徳治	立命館大学	2008	日・英
E	教育	教育方法論	●	●		教育方法論Ⅱ	高等教育における授業技術	木野 茂	立命館大学	2008	日・英
E	教育	教育方法論		●		教育方法論Ⅲ	教育メディアの利用	宮田 仁	滋賀大学	2009	日
E	教育	教育方法論	●	●	●	教育方法論Ⅳ	学習教材作成における著作権等の理解	坂井 知志	常磐大学	2009	日
E	教育	教育方法論	●	●		教育方法論Ⅴ	学生授業評価の読み方と授業への活用	安岡 高志	立命館大学	2009	日
E	教育	教育方法論	●	●		教育方法論Ⅵ	情報活用基礎：ICTを活用した学習コミュニティづくり	中島 英博	名城大学	2009	日
E	教育	授業設計論	●	●	●	授業設計論Ⅰ	大学の授業の設計	沖 裕貴	立命館大学	2008	日・英
E	教育	授業設計論	●	●		授業設計論Ⅱ	授業設計と授業方法・技術・評価	横田 学	京都市立芸術大学	2009	日
E	教育	教育評価論	●	●		教育評価論Ⅰ	成績評価の意味と方法	鳥居 朋子	立命館大学	2008	日・英
E	教育	教育評価論	●	●		教育評価論Ⅱ	目標準拠測定に基づく評価	野嶋 栄一郎	早稲田大学	2009	日
E	教育	教育評価論	●	●	●	教育評価論Ⅲ	ティーチング・ポートフォリオとは	栗田 佳代子	大学評価・学位授与機構	2009	日

＊2010年度に一部改訂

大分類		中分類	対応レベル			分　野	テ　ー　マ	講　師	所　属（撮影時）	撮影年度	日・英
			LV1	LV2	LV3						
E	教育	心理学	●	●		心理学Ⅰ	青年期の心理	白井 利明	大阪教育大学	2008	日・英
E	教育	心理学	●	●		心理学Ⅱ	発達の原理と各段階の特性	西垣 順子	大阪市立大学	2008	日・英
E	教育	心理学	●	●		心理学Ⅲ	臨床心理学の基礎と応用	串崎 真志	関西大学	2008	日・英
E	教育	心理学	●	●	●	心理学Ⅳ	発達障害のある学生の学び ーアスペルガー症候群を中心にー	荒木 穂積	立命館大学	2009	日
R	研究	研究	●	●	●	研究者倫理Ⅰ	教員と学生の教育・研究を促進するツールとしての研究倫理	望月 昭	立命館大学	2009	日
R	研究	研究	●	●		研究のアウトリーチ活動Ⅰ	研究者にできる多様なアウトリーチ活動の紹介	半田 利弘	東京大学	2009	日
M	管理運営	大学管理運営	●	●		大学管理運営Ⅰ	大学教職員のための大学管理運営基礎	肥塚 浩	立命館大学	2008	日・英
M	管理運営	大学管理運営	●	●		大学管理運営Ⅱ	近年の大学改革の進展を踏まえた大学管理運営の新たな発想	山本 眞一	広島大学	2008	日・英
M	管理運営	大学管理運営	●	●	●	大学管理運営Ⅲ	リスクマネジメント：大学教員のためのキャンパスハラスメント	井口 博	東京ゆまにて法律事務所	2009	日
M	管理運営	大学管理運営		●	●	大学管理運営Ⅳ	IR 入門	鳥居 朋子	立命館大学	2010	日
M	管理運営	大学管理運営			●	大学管理運営Ⅴ	業務改善のための IR	池田 輝政	名城大学	2010	日
M	管理運営	大学管理運営			●	大学管理運営Ⅵ	ADMINISTRATIVE STAFF DEVELOPMENT 大学管理職の職能開発	ブルース・ストロナク	テンプル大学ジャパン	2010	日・英
M	管理運営	大学管理運営		●	●	大学管理運営Ⅶ	PDCA を理解する	安岡 高志	立命館大学	2010	日
M	管理運営	ファカルティ・ディベロップメント	●	●	●	FD 概論Ⅰ	大学におけるミクロ・ミドルレベルでのFD活動	佐藤 浩章	愛媛大学	2010	日
M	管理運営	ファカルティ・ディベロップメント		●	●	FD 概論Ⅱ	大学におけるマクロレベルでの FD 活動	川島 啓二	国立教育政策研究所	2010	日
M	管理運営	ファカルティ・ディベロップメント		●	●	プロジェクト・マネジメント	FD 活動推進等の大学経営革新に活かすプロジェクトマネジメント	牧野 光昭	（社）日本能率協会	2010	日
WS	WS	ワークショップ		●	●	授業設計論演習Ⅰ	シラバスと授業の到達目標の書き方			2010	日
WS	WS	ワークショップ		●	●	授業設計論演習Ⅱ	強制連結法による授業設計			2010	日
WS	WS	ワークショップ		●	●	教育方法論演習Ⅱ	良い授業のための留意点（話し言葉に着目して） ー図形並べー			2010	日
WS	WS	ワークショップ		●	●	教育評価論演習Ⅱ	ティーチング・ポートフォリオの作成			2010	日
WS	WS	ワークショップ					ワークショップ準備篇			2010	日

「実践的 FD プログラム」申込要領

利用期間

１年間（毎年５月利用開始・翌年３月末終了）

申込方法

①「利用申込書」に必要事項を記入のうえ、Fax、E-mail、郵送いずれかの方法で事務局までお送りください。
※本プログラムは教職員個人単位の申請はできません。事務局より申請してください。

② 利用申込受付後、「受付確認書」と「受講者情報登録用紙」をお送りいたします。
個人 ID 発行のために、受講者の情報（氏名・職種職位・所属）をお知らせください。
なお、登録時にいただいた情報は、ユーザ調査（利用状況調査）の際に利用します。

③ その後「振込依頼書」をお送りしますので、記載された振込先に利用料をご入金願います（振込時期：４月上旬）。
振込が確認でき次第、ID・パスワードをお送りします。
※振込手数料は申込者のご負担でお願い致します。
※いったんお振込みいただいた利用料は返金いたしかねますのでご了承ください。

利 用 料

利用者数（アカウント数）に応じて利用料を設定しています。
利用者１名につき１アカウントが必要です。

利用者数（アカウント数）	会 員 校(*) 利 用 料	非会員校 利 用 料
1 ～ 9 名	10,000 円	20,000 円
10 ～ 19 名	30,000 円	40,000 円
20 ～ 29 名		60,000 円
30 名以上	50,000 円	――

（*）会員校＝全国私立大学連携 FD フォーラム会員校

申込締切

毎年３月末

お問合せ・お申込先

立命館大学　教育開発推進機構（事務局：教育開発支援課）
TEL：075-465-8304　　FAX：075-465-8318　　E-mail：fd71cer@st.ritsumei.ac.jp
＊申込にあたっては、必ず『立命館大学「実践的 FD プログラム・オンデマンド講義サービス」利用規約』をご確認ください。
（JPFF ホームページ参照　URL：http://www.fd-forum.org/fd-forum/html/fd_application.html）

■「全国私立大学 FD 連携フォーラム」規約■

第 1 章 総則

【名称】

第 1 条　この連携体は、全国私立大学FD連携フォーラム（以下「本フォーラム」という。）と称する。

【目的】

第 2 条　本フォーラムは、全国の中規模以上の私立大学が連携して、FD（ファカルティ・ディベロップメント）を推進することを目的とする。

【活動】

第 3 条
1．本フォーラムは、前条の目的を達成するため、次の各号に定める活動を行う。
2．FD に関わる取組や研究の共同開発・実施
3．FD に関わる教材・資料・情報の提供・共有
4．全国への情報発信（ホームページの作成、広報誌の発行など）
5．その他、前条の目的を達成するために必要な活動

第 2 章 会員校

【会員校】

第 4 条
1．全国の中規模以上の私立大学のうち、本フォーラムへの入会を希望するときは、幹事会に所定の届出を行い、承認を得ることにより、本フォーラムの会員校になることができる。
2．前項の「中規模以上」とは、所属する総学生数が概ね 8 千人以上の大学とする。また、幹事会が会員校に相応しいと判断した大学もこれに含む。
3．参加単位については、大学や機関等組織体による参加とする。
4．会員校は、第 3 条に定めた諸活動に参加することができる。
5．本フォーラムを退会するときは、本フォーラムの事務局に届け出なければならない。

【会費】

第 5 条　会員校は、本フォーラムの定めるところにより、毎年会費を納めなければならない。

第 3 章　組織

【総会】

第 6 条
1．本フォーラムは、原則として毎年 1 回総会を開催する。
2．総会は、全会員校をもって構成する。
3．各会員校は、当該会員校を代表して総会に出席する者 1 名をあらかじめ登録しなければならない。ただし、会員校に所属する他の者が、あらかじめ登録した者を代理し、または総会に陪席することを妨げない。
4．総会は、次の事項を審議する。
① 会費に関すること
② 年度ごとの活動方針、活動報告に関すること（予算、決算報告を含む）
③ 代表幹事校、幹事校および監査役の選出に関すること
④ 規約の改正に関すること
⑤ その他重要な事項
5．前項に定めるもののほか、総会の議事の運営に関し必要な事項は、総会で定める。
6．総会は、会員校の半数以上が出席しなければ、開会することができない。
7．総会の議事は、出席の会員校の過半数をもって決し、可否同数の時は、議長校が決する。

【代表幹事校および幹事校】

第 7 条
1．本フォーラムに、幹事校 10 校を置き、そのうち 1 校を代表幹事校とする。
2．幹事校は、会員校の中から選出し、総会で承認する。
3．代表幹事校は、第 8 条第 3 項第 1 号による幹事会の推薦に基づき、総会での承認を得て、選出される。
4．代表幹事校は、総会および幹事会を招集し、議長校となる。

【幹事会】

第 8 条
1．本フォーラムに幹事会を置き、代表幹事校および全幹事校で構成する。
2．代表幹事校および幹事校の任期は 2 年とする。ただし、いずれも再任を妨げない。
3．幹事会は、次の事項を審議する。
① 代表幹事校の推薦に関すること
② 本フォーラムの活動に係る企画立案に関すること
③ 本フォーラムへの入会および退会に関すること
④ 総会の議案に関すること
⑤ 本フォーラムの運営に関すること
⑥ その他重要な事項であって、緊急に決定を要すること
4．幹事会が前項第 6 号の規定による決定をした場合には、総会その他の方法により、会員校に速やかに報告し、承認を受けなければならない。
5．幹事会は、必要と認めるときは、幹事校以外の会員校または者を出席させて、説明または意見を聴くことができる。
6．幹事会の運営については、この規約に定めるもののほか、幹事会で別に定める。

【監査役】

第 9 条
1．本フォーラムに監査役 2 校を置く。
2．監査役は、会員校の中から選出し、総会で承認し、会計を監査する。
3．監査役の任期は、2 年とする。

【ワーキング・グループ】

第10条
1．本フォーラムの業務を遂行するため、ワーキング・グループを組織することができる。
2．ワーキング・グループの組織、運営等については、幹事会で別に定める。

【事務局】

第11条
1．本フォーラムの事務局は、代表幹事校に置く。
2．代表幹事校および幹事校は協力して事務局の運営にあたる。

附則　1．この規約は、2008年12月 6 日から施行する。
2．この規約の施行後最初の代表幹事校、幹事校および監査役の任期は、総会で別途定める。
附則　（2010年10月 8 日　第 4 条の 2 、第 7 条の 2 、第 9 条の 2 の一部改正）
この規約は、2010度10月 8 日から施行する。

入会のご案内 Guide to membership

全国私立大学FD連携フォーラムの年会費は、当面、5万円としています。

全国私立大学FD連携フォーラムの活動や報告などについては、下記ホームページをご覧ください。入会を希望される場合は、ホームページより入会届をダウンロードし、ご記入いただき、郵送もしくはFaxにて下記 代表幹事校事務局までお送りください。

全国私立大学FD連携フォーラムへの入会に関するご質問や実践的FDプログラムの利用に関するご質問がございましたら、下記 代表幹事校事務局までお問い合わせください。

http://www.fd-forum.org/

代表幹事校事務局
立命館大学 教育開発推進機構（事務局：教育開発支援課）

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
◎TEL:075-465-8304 ◎FAX:075-465-8318
◎e-mail:fd71cer@st.ritsumei.ac.jp

http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/itl/

発行日：2011（平成23）年3月 編集・発行：立命館大学 教育開発推進機構